

こ　ど　も　た　ち

TEKNA

2012年 クリスマス号

きょうダビデの町に　あなたがたのために　救い主がお生まれになつた。

(ルカによる福音書 2 章 1 1 節)

クリスマスおめでとうございます。来る年に、皆様の上に神様の愛が豊かに注がれますよう、お祈り申し上げます。リターニーから寄せられたクリスマスメッセージです。

マーガレット 柳生 恵

クリスマスおめでとう！！感謝します。
羊、天使、マリア様・・・と、降誕劇では一通りやりました。
でももし、今、幼いころにタイムスリップできたら羊飼いの役がやりたいのです・・・ 「みんな、聞いて！イエス様がお生まれになったよ！・・・」
と、村人たちにこう伝えた羊飼いに。 Merry Christmas to you all !

クリスマスを迎える 佐藤光子
ザカリアの予言どおり、そしてあの美しいマリアの賛歌があり（バツハの『MAGNIFICATO』が素晴らしい）マリア、ヨセフの苦しみや悩みを超えて神様は私たちにまことの人であり神であるイエス様をこの世に贈って下さいました。イエス様は暗闇の中のともし火です。
私の教会、新生教会では2 1－2 3 3 「高く戸を上げよ」の賛美歌を1 2月に歌っています。戸を上げ、心を開いてイエス様を迎えいれよう、と歌います私たちの心の中には主イエスがいらっしゃる、“インマヌエル、神共にいます”
救いのメッセージを頂きその喜びに答え隣人に伝えて行きましょう。
神様の一方的な恵みはいつどこで与えられるか分からない、けれども信じます。

山本祐靖

今年司祭に叙階されたインド人のイエズス会の方の初ミサの説教のテーマです。一番大事なときは「今」、一番大事な人は「あなた」、一番大事な行為は「愛」。「あなた」は自分ではありません。

久下 倫生

キリスト教は、「待つ」宗教であると言えます。キリスト、救い主の出現を待ちます。

学者は難しく「待望」といいますが、要するに expectation, 待ち望むことです。ルカ福音書に記されているクリスマスの物語でも、羊飼いたちはキリストの誕生を待っておりました。そうでなければ、天使の知らせを聞いて、すぐさま行動を起こすことはなかったでしょう。当時羊飼いはアウトローだったようです。苛酷な肉体労働者で、社会の周辺で生きており、人口調査にも関係がない、つまり数に入っていない人たちでした。でも彼等はキリストがいつか必ず現れると知っておりました。彼等の達者な足は、ますます速くなって夜のベツレヘムの町を駆けて行きます。そして天使の告げた赤ちゃんを探し出しました。

「待ち遠しい」と言いますと、時間が速く過ぎることを望む気持ちです。すると、人生の残された時間が短くなってしまいます。それでも4世紀以来、世界はクリスマスを待ち遠しく思い続けました。みんなわくわくして、クリスマスを待ちました。わたしたちもまた、キリストとの出会いを探しながら今年もクリスマスを待ち望んでおります。お一人お一人が、天使の告げるお方を発見なさいますように。主の平和がみなさんに。

天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。（ルカ2章15, 16節）

マーガレット 三浦 万都美

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に涙を流しなさい。」（ローマの信徒への手紙12章15節）11月の例会で植松さんがこの聖句ふれ、私たちに最近だれかと共に喜んだり、共に涙を流したりしたことはありますか？との問いかけがありました。悲しみも苦しみも喜びも、だれも自分の身に起こったことでなければ、しょせん他人にはわからないことだわ！と私は思いがちなので、植松さんが自分のことのように喜んでくれた人の話を聞いたときに、自分は人に対して、寄

り添うことの大切さを忘れていたことに気づきました。自分を中心に置くのではなく、常に他の人を思い、寄り添う心を忘れずに、神様の大きな愛に応えられるようにならないと！！と心の中で呟いていました。植松さんが伝えた「祈る力」は、確かにあります。共に祈りましょう。主と共に、あなたと共に、そして、クリスマスの奇跡があなたに訪れることを、主に感謝。
テゼの祈りとM J M東京のクリスマス会に出席して ソフィア 阿部園子

11月28日のテゼの会は、前週に行われた聖公会の東京教区の教区会で植松さんをお見かけした直後でした。教区会は今回が2回目の出席でしたが、一般の会と全く異なる組織や進行に非常に精神的に疲れきった一日でした。植松さんは一体このような会に出席なさってどのような思いを抱いているのかしら、と思っていました。始まるまでの時間少し植松さんに教区会でお見かけしたお話を致しました。

冒頭の植松さんのお話は、「選挙がもうすぐありますが、皆さんは選挙の為に祈っていますか？」という問いから始まりました。選挙の為に祈ることはとても大切なことだということです。そして植松さんが、電動車いすで移動されるお友達の介助をなさった経験をお話され、ここ数年で映画館をはじめ公共交通機関でも、ハンディーを持った方を優先的に対応することが当たり前になっている。このような現状に至るまでにどれほどの祈りと、献身的な活動が重なっているか。

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」(ローマの信徒への手紙12:15) そしてお話は、我々教会や修道会が立派な器になった時に、忘れてしまったことがある。

植松さんが祈りの会などで、出席者の宿を探す時に困難を経験される。それでもシスターに「寝袋持参するので、雑魚寝でもいいから。」とお話すると、「それでいいの？」という事で受け入れていただくことができる。そしてシスターは「そういうことを忘れてしまっているわね。」とおっしゃる。

「聖なる者たちの貧しさを自分のものとして彼らを助け、旅人をもてなすよう努めなさい。」(ローマの信徒への手紙12:13)

新生教会で行われたM J M東京のクリスマス礼拝の土橋先生の冒頭の祈りも選挙の為に祈りから始められました。現在のクリスマスは明るく楽しいイメージだが、実はイエス様の降誕は本当に苦しみの中に起こったことだった。イエス様を身ごもられたマリア様を受け入れることは、ヨセフにとって神様に対する真の正しさの選択だった。しかし真の正しさを選択したヨセフやマリア様は、想像を超えた苦しみの中にあった。

お二人のメッセージは降臨節を迎えた私に多くのお恵みを与えてくださいま

した。冒頭で述べたように、日々の教会生活では本当に心の萎えるような事が起こって、心身共に疲れることがあります。しかし神様は、このような苦しみや不条理に満ちた世に苦しみに満ちた状況でイエス様を使わされたクリスマスを新約の始まりにした。このことを深く受け止め祈りをもって降誕日を迎えようと思います。

「衰えず、くじけずに」

森泉弘次

クリスマスが近づくと、わたしはなぜかイザヤ書を読み返したくなります。今朝（12月8日）は第42章の冒頭のメシア預言を読みました。エルサレム聖書から引用します。

「見よ、わたしが支持するわが僕、わが魂の喜ぶわが選びし者を。わたしは彼の上にわが霊を置く。彼は諸国に公平な裁きをもたらす。彼は叫ばず、声を上げず、街（まち）行く人にその声は届かない。彼は傷める葦を折ることなく、消えかかった灯心を切ることもなく、誠実に公平な裁きをもたらす。彼は衰えず、くじけない。地上に公平な裁きを確立するまでは。沿岸や島々は、その教えを待ち望む」。

新しい年、わたしは朝食前に唱える聖句をこれに決めました。思えばこの一年はわたしたち夫婦にとって試練の連続でした。皆さんの中にも同じように苦しい一年を過ごされた方がいらっしゃると思います。ましてや3・11の被害者の方々の苦しみは想像を絶します。5月24日家内の妹が、肝臓ガンから脳への転移で急死しました。長野市の日赤病院へ何度も泊りがけで介助に行った家内は哀れでした。6月上旬前立腺の腫瘍マーカーが健康人の5倍あるわたしは、生まれて初めて入院して組織検査を受けました。結果はno cancerで良かったのですが、傷口の出血が長引き、衰弱しました。7月下旬家内の、今度は、弟が胃ガンで手術となりました。義弟はバス通り清掃を続けるわたしの大切な助っ人でした。彼の回復を祈る毎日です。

神が約400年後にパレスチナの寒村ナザレに送った主の僕イエスとイザヤ書42章の主の僕は弱い立場の人への思いやりの深さと、使命と信じることを黙々と続ける地道さと、「衰えず、くじけない」（新改訳！）タフネスぶりと、たいへん似ています。同じような試練と闘っている皆さん、イエスさまの御足の跡を辿って、「衰えず、くじけずに」ゆっくと年末も新年も歩いて行きましょう。疲れたら、遠慮せずにお休みしましょう。

「眠りは苦勞でもつれゆるんだ糸を編み直してくれる」とシェークスピアは言います（「マクベス」）。病も睡眠中に回復過程が促されるそうです。

メリー・クリスマス！

